

夏目漱石『虞美人草』愛の形

(Junko Higasa 2013.10.26 Sat.)

運命は一重の壁に思ふ人を終古に隔てると共に、
丸い池に思わぬ人をはたと行き合わせる。(第十一章)

愛されることを知りながら
愛することを知らない人がいた
それは藤尾という名の金持ち女
愛することを知りながら
愛されることを知らない人がいた
それは清三という名の貧しい男

運命と呼べるのか この愛は
生まれによる愛の流れは

美しさに恵まれた女が
欲しかったものは
努力では得られない地位
才能に恵まれた男が
欲しかったものは
努力では得られない血筋

愛されることに慣れた女は
愛することを知ろうとしない
愛することに慣れた男は
愛されることを知ろうとしない
二人の愛は
丸い池の周りですれ違う

女の愛は白い雨
男の愛は黒い土

やがて
白い涙の嵐は
黒い大地の隅々まで
染みわたって止んだ